

笑顔広がる！まつやま応援寄附金の活用について(ご報告)

◎ 令和6年度にお寄せいただいた寄附の実績

件数 155,978件 金額 2,362,147,283円

◎ 寄附金の使い道について

各項目ごとに活用させていただいた事業の概要を記載していますので、ご覧ください。



1. 安心・安全な子育て環境の充実と整備のために 件数 73,451件 充当額 1,076,255,900円

○ 不妊治療・不育症検査助成事業

子どもを持ちたいと望まれるご夫婦の経済的負担の軽減を図るため、不妊検査や不妊治療の費用に対して、助成を行いました。また、不妊・不育に関する様々な悩みや不安に寄り添うため、専門相談窓口を設置し、助産師や保健師が相談に応じました。令和6年度は、不妊検査・不妊治療として延べ996件の助成を実施しました。

○ 妊娠・出産支援事業

「こども家庭センターすくすく・サポート」に保健師等が常駐し、母子健康手帳交付等の諸手続や育児・栄養相談など妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援をしています。令和6年度は13,414件のご利用がありました。

・生後4か月までの赤ちゃんがいる家庭を訪問し、子育て情報の提供や育児の不安や悩みへの助言等を行っています。令和6年度は2,724件の訪問を実施しました。

・出産後のお母さんと赤ちゃんのケアや育児支援を行う産後ケア事業を実施しています。令和6年度は延べ399人のご利用がありました。



保健師が赤ちゃんがいる家庭を訪問しています。

○ 子ども医療助成事業

子育て家庭の経済的負担を軽減し、子どもの病気の早期発見・治療を支援することで、子育て環境の充実を図っています。現在、18歳年度末までの入院・通院費を助成し、約70,000人の子どもに受給資格証を交付しています。

2. 健全で豊かな心を育む教育のために 件数 8,447件 充当額 125,241,100円

○ 学校・家庭・地域連携協力推進事業

地域の方々の協力を得て、放課後等に子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化活動などを行う放課後子ども教室(市内29教室)や登下校の見守り、授業の援助など学校に対する多様な協力活動(市内4地区)を実施しました。

令和6年度は、放課後子ども教室に1,828人の参加登録がありました。

○ 未来の「ふるさと松山」創造事業(次世代に向けた特色ある学校づくり)

SDGsの達成につながる探求的な学習や体験活動、教科横断的な学習を通して、子供たちが多様な他者と協働しながら様々な社会の変化に対応し、ふるさと松山で持続可能なまちづくりを担う社会の創り手となることを目指し、補助金の支出や出前講座の紹介等、地域の特色を生かした学校づくりを推進しました。

令和6年度は82校がSDGsの取り組みを実施しました。

○ 教育の情報化推進事業

GIGAスクール構想のもと、教育に関するICT環境整備や活用等に関する研修を充実させ、児童生徒の情報活用能力の育成、校務DXを通じた働き方改革及び、教員のICT活用指導力の向上を目的に、教育の情報化を推進しました。

令和6年度は全ての小・中学校で授業中にICTを活用して指導しています。



市内小学校での体験活動の様子

3. 魅力ある農業・観光の振興のために 件数 21,263件 充当額 335,503,583円

○まつやま農業未来人材投資事業

- ・新規就農者の園地にて、栽培管理作業の手本を見せながら丁寧な指導を行い、就農希望者には、環境に配慮した栽培や農業DX機器を使った実習等を行いました。令和6年度は延べ454回新規就農者等へ指導を行いました。
- ・作業の負担軽減や生産性の向上に繋がる農業DX機器の体験研修会を実施し、機器導入の後押しを行いました。
- ・農業や化学肥料の減少に関する実践的な研修を7回行いました。



農業DX研修の様子

○国際観光客誘致促進事業

- ・台湾、韓国、中国などの諸外国からの外国人観光客誘致を促進するため、海外の旅行会社向けに、松山の魅力を発信するプロモーション活動を行ったほか、中央商店街にまつやまインバウンドボランティアガイドを配置し、外国人観光客のお困りごとに対応することで、満足度向上につなげました。令和6年の外国人観光客推定数は535,300人となりました。

○二之丸庭園・城山公園等管理事業

- ・二之丸史跡庭園や城山公園等の管理に指定管理制度を導入し、適切な施設管理を行うとともに、観光施設として入場者数の増加に努めています。また、二之丸史跡庭園は平成25年10月に恋人の聖地として選定されており、様々なイベントを実施しています。令和6年の入場者数は50,412人となりました。



二之丸史跡庭園(茶室)

○道後温泉活性化事業

令和6年度は、道後温泉本館の改築130周年、約5年半ぶりとなる本館全館での営業再開、そして保存修理工事の完了と節目が重なる年であったことから、記念シンポジウムや全館営業再開の記念式典の開催、記念ポスターの制作など様々な記念事業を実施し、本市及び道後温泉本館への誇り、愛着の醸成につなげるとともに、広く道後温泉の魅力を発信して更なる誘客及び創客を推進しました。

また、産官学が参画する持続可能な道後温泉協議会では、上人坂を中心に各種イベントを実施しました。これらをきっかけに、令和6年度は769,254名の方が道後地区に宿泊客としていらっしゃいました。



全館営業再開記念式典テープカット



道後・上人坂の交流拠点「ひみつジャナイ基地」

4. 文化やスポーツで魅力あふれるまちにするために 件数 5,029件 充当額 79,999,500円

○ことばのちからイベント事業

正岡子規や夏目漱石と縁の深い松山ならではの豊かな文学的土壌を生かし、俳都松山の夏の風物詩「俳句甲子園」や「ことば」をまちに掲出する「街はことばのミュージアム」など「ことば」をキーワードとした取組みを行い、「ことばを大切にすまち松山」を国内外へ広く発信しています。

「俳句甲子園」には31都道府県78校99チームからエントリーがありました。



第27回俳句甲子園
全国大会の様子

○文学賞運営事業

新しい青春文学の創造と本市の文化的イメージ向上のため、近代俳句の祖・正岡子規を生み、近代小説の文豪・夏目漱石の小説『坊っちゃん』に描かれたまちという豊かな文学的土壌を生かし、平成元年の市制100周年を記念して青春文学小説の募集を開始しました。

これにより、「ことばと文学のまち松山」の全国発信とともに、小説『坊っちゃん』のまちとして市民の誇りや愛着を醸成することにつながりました。

令和6年度は、全国47都道府県に加えて海外からも作品が寄せられ、8,341点の応募数となりました。

○スポーツイングシティまつやま推進事業

スポーツを通じた交流人口の拡大や地域経済活性化を図るため、地域に密着したプロスポーツ(愛媛FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス)の支援事業やプロ野球公式戦を誘致しました。スポーツと触れ合う機会を創出するとともに、今後の交流人口拡大による地域経済の活性化につなげることができました。令和6年度のプロスポーツ集客数は176,000人でした。

○社会体育振興事業

- ・スポーツ推進のために、四国大会以上の大会で優秀な成績を収めた選手指導者に対し「まつやまスポーツ笑顔大賞」を表彰しています。
- ・松山市を代表して全国大会に出場する小中学生を激励するため「体育大会出場激励金」を交付しています。令和6年度は526名に交付しました。
- ・第36回トライアスロン中島大会を開催し、300名の出場者が熱いレースを繰り広げました。



第36回トライアスロン中島大会の様子

5. 誰もが健康で生き生きと暮らす地域の実現のために 件数 7,357件 充当額 111,257,500円

○障害福祉サービス事業

障害者総合支援法に基づき個々の障がいのある方々の障がい程度や勘案すべき事項等を踏まえ、居宅や生活介護事業所等での介助サービスや、グループホーム、就労継続支援事業所での訓練等給付等の支援を行っています。また、児童福祉法に基づき、原則18歳未満の発達に遅れがある児童の社会生活への適応性の基盤を形成するため、児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所等で支援を行っています。

また、この支援が、障がいのある方が、地域で生き生きと暮らしていくための支えとなっています。

令和6年度は障害福祉サービスを3,735名、障害児通所給付を2,973名にご利用いただきました。

○高齢者いきいきチャレンジ事業

高齢者の外出機会の創出や健康増進を目的に、市内在住の65歳以上の高齢者が、対象イベントへの参加や健康アプリの脳トレのほか、歩数計を使いながらポイントを貯めることで無理なく、楽しく健康習慣を身につけることができるよう取り組んでいます。

貯めたポイントは道後温泉別館 飛鳥乃湯泉で利用できるほか、電子マネー(ペイペイ)に交換できます。

令和6年度は健康アプリ登録者数が1,355名、アプリ利用者のイベント参加者が延べ1,476名でした。

6. 豊かな自然・環境を次世代に引き継ぐために 件数 13,698件 充当額 203,723,500円

○ ゼロカーボンシティ松山推進事業

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、令和6年度は太陽光発電システム106件、住宅用蓄電池システム413件の設置補助やEVカーシェアリングの実証等を行いました。そのほか、「まつやま環境フェア」に5,484名の方に来場いただき松山市域の温室効果ガスの削減及び脱炭素ライフスタイルへの転換を進めることができました。

まつやま環境フェア:0円服の交換会



○ 環境教育啓発推進事業

環境啓発施設「りっくる(まつやまRe・再来館)」でのリサイクル講座や小学生4～6年生を対象とした夏休みの「サマー！エコキッズスクール」、市が認定した市民講師「松山市エコリーダー」を学校や公民館等に派遣するなど、市民の環境保全意識の向上に努めました。令和6年度は5,594名の方に環境学習会に参加いただきました。



「サマー！
エコキッズスクール」
海洋ごみ調査の様子

○ 浄化槽対策事業

水質汚濁防止と公衆衛生の向上を目的として、合併処理浄化槽の維持管理費への補助や適正な維持管理方法に関する指導・啓発を行っています。

維持管理補助金は、公共下水道が未整備の地域で、10人槽以下の合併処理浄化槽を適切に維持管理している浄化槽管理者を対象に8,000円/年として交付しています。

令和6年度の合併処理浄化槽維持管理費補助基数は18,488基となりました。

7. 災害等に強い安心・安全なまちをつくるために 件数 8,795件 充当額 130,666,500円

○ 防災行政無線維持管理業務

デジタル防災行政無線は、市民に広く情報を伝達する設備として、市内全域に整備し、計画的な点検による不具合の早期発見と修繕を行っています。

令和6年度は、防災行政無線の屋外子局点検を45箇所実施しました。

○ 対策本部運営事業

災害対策(警戒)本部の設置及び運営を円滑に実施し、被害情報の共有や被害対応の迅速化並びに気象情報などの収集・伝達を行い、市民の生命、身体及び財産を保護し、被災者等の市民生活の早期安定を図っています。

令和6年度は、災害警戒本部を6回、災害対策本部を1回設置しました。



図上型防災訓練の様子



防災行政無線設備(津和地漁港)

○ 農林土木災害復旧事業

農林生産活動の維持と農業経営の安定を図り、国土の保全と農村地域の安定性を向上させるため、令和5年6月30日から大雨及び令和6年11月2日の大雨により被災した農地及び農道やため池などの農業用施設等を早期に復旧しています。令和6年度は229箇所の復旧が完了し、87箇所の作業を継続しています。



大西谷農道 着工前

→→ 復旧 →→



大西谷農道 完成

8. 大好きなまつやまのために 件数 11,364件 充当額 195,798,600円

○ 待機児童対策・保育の質向上事業

・児童受入れの増加

待機児童の解消を目的に、待機児童の多くを占める1,2歳児についてさまざまな基準を満たした上で、定員を超えて受け入れた場合に施設に助成を行っています。

令和6年度は定員を超えた児童368人の受け入れがありました。

・入園予約制

安心して育休取得していただくことを目的に、年度途中に育休から復帰予定の方を対象に入園予約制度を導入し、実績のあった施設に助成を行っています。令和6年度は児童187人の入園予約が決定しました。



園内の様子

○ 三津浜地区活性化推進事業

・空き家・古民家の活用

物件所有者と賃借希望者の橋渡しをする「町家バンク」や、空き店舗を改装し安価な賃料で貸し出すチャレンジショップ、1棟の建物に複数店舗が出店するシェアショップを運営し、新規出店・移住の促進による新たなにぎわい創りを行いました。

令和6年度の「町家バンク」のマッチング件数は13件、うち新規出店は9件でした。

・食文化の活用

地元に愛されてきたお好み焼きを独自のご当地グルメ「三津浜焼き」としてブランド化するとともに、食による地域活性化を図るイベントとして「ご当地こなもんサミット2025in松山」を実施し、認知度の向上を図りました。今年は、約16,000人にご来場いただきました。



「町家バンク」を活用した飲食店



「ご当地こなもんサミット2025in松山」

○ 独居高齢者みまもり員設置事業

市内のおおむね65歳以上の独居高齢者が安心して暮らすことができるよう各地区にみまもり員を設置し、訪問活動等で独居高齢者の実情を把握し、安否確認を行うことで不測の事故防止に努めています。

令和6年度は403人のみまもり員が延べ46,508回の訪問を実施しました。

9. SDGs未来都市松山こども夢ファンド 件数 2,360件 充当額 35,825,600円

○ 愛ランド里島構想推進事業

・里島を体感できる体験イベントを実施している「まつやま里島ツーリズム連絡協議会」の活動など、島ならではのツーリズムを推進するための支援を行いました。

令和6年度は48事業のイベントを開催し、計8,820名にご参加いただきました。

・島嶼部男性の出会いのきっかけを創出するイベントを開催し、14組のカップルが成立しました。

・里島定住促進施設や空き家バンクの運営など、島嶼部への定住促進に取り組みました。

令和6年度は、里島定住促進施設に4世帯が新規入居され、うち2世帯は退去後も定住されています。

・島民などを対象に通勤・通学の定期運賃等の一部を補助し、里島への定住促進や活性化を図りました。令和6年度は、96名へ通勤・通学の補助を実施しました。



里島定住促進施設（ハイムインゼルごこしま）



里島めぐり（Nakajima愛land Cycling Tour）

○ SDGs推進事業

産・学・民・官・金が一体となって課題解決に取り組むプラットフォーム「松山市SDGs推進協議会」の活動支援を行うなど、SDGsの普及・啓発に取り組みました。また、地域にSDGsを意識した行動を広げるため、研修を受けた大学生を松山市SDGs推進コンダクターに認定し、市内の小学校低学年向けの授業の講師として派遣しました。令和6年度は、28校に松山市SDGs推進コンダクターを派遣しました。



小学校低学年向けのSDGs授業の様子

○ 修学旅行誘致促進事業

- ・平日の団体旅行者の確保や将来のリピーター化を目指して、修学旅行を誘致するための営業活動などを行っています。
- ・戦略的に効果的な誘致ができるエリアを重点エリアとし、学校関係者や旅行会社をターゲットに、旅のルートや素材を提案しています。
- ・特別支援学校の修学旅行のサポート内容を充実することで、誰もが安心して旅行を楽しめるまちを目指しています。令和6年度は、84校、11,822人の修学旅行の受け入れを行い、またそのうち8校、149人は特別支援学校の方々に来ていただくことができました。

10. 若者が愛着や誇りをもてるまちにするために 件数 4,480件 充当額 67,875,500円

○文化振興事業

TGC MATSUYAMA 2024の様子

若者に人気のファッションイベント「TGC MATSUYAMA 2024 by TOKYO GIRLS COLLECTION」及び関連イベント「JAMCLAP MATSUYAMA feat. TGC MATSUYAMA 2024 by TOKYO GIRLS COLLECTION」を開催し、若い世代を中心とした松山の魅力の発信と、地方にしながら“最先端の若者文化”を体験できる機会の創出に取り組みました。



○移住定住促進事業

松山に新しい人の流れをつくるため、SNSなどによる情報発信に加え、移住後の生活をイメージしてもらう移住体感ツアーを実施したほか、移住フェアに出展し、移住検討者に松山の暮らしの魅力を紹介しました。また、地元学生で結成するプロジェクトチーム「マツワカ」は、地元企業と連携した商品開発や、地元企業を紹介するリーフレットの制作などを通じて、市内外の若者に松山の魅力を発信しました。県外から松山市へ3,095人の移住につなげたほか、若者のシビックプライドの醸成を図ることができました。



オーダーメイド型移住体感ツアー



パッケージ型移住体感ツアー



プロジェクトチーム マツワカ